

2007 年度

科目名 文章表現	対象学科・学年 文学部英米1回生 文学部文財1回生 文学部コミ1回生 教育教福1回生 人間人社1回生	担当者 小伏 志穂
授業テーマ 苦手意識をなくして書こう		
授業の概要と目標 親しい友人とのメール交換は楽しいものです。メールの普及により、わたしたちが「文章」を書く機会が増えています。しかし、「文章など誰にでも書ける」と、ただ書きなぐっているだけになっていませんか。まずは、文章表現の基本の「型」を知ることから始め、そこから自分らしい「型破り」のおもしろい表現を見つけていきましょう。		
評価方法 授業への参加度（出席・課題・小テストの取り組みなど）で総合評価します。		
テキスト 受講生自身の文章が、生きたテキストとなります。 適宜プリントを配布します。	著者	出版社
参考書 必要に応じて、講義中に指示します。	著者	出版社
授業スケジュール・内容 - 手紙文・案内文を書く 一定の「書式」のある文章の型と、敬意表現を練習します。 - Eメール文を書く 限られた文字数で用件を述べる練習をします。 また、メール文のマナーについて、みんなで考えてみましょう。 - 随筆文を書く まずは、「見たこと」「感じたこと」を自由に表現してみましょう。 「誰にでも分かる表現」で「自分にしか書けないこと」を書くことを目標とします。 - 論理的な文章を書く 課題に対して「考えたこと」を、論理的にまとめます。 文章にすることとは、自分の考えをしっかり組み立てなければなりません。 考えや意見をきちんとまとめることを目標とします。 - 小説を書く 「伏線」や「落ち」を考えながら、表現を工夫する練習をします。 広告文などに見られるレトリックを用いた文章も書いてみましょう。 ※ 随時 ・「現代表記法」や「原稿用紙の使い方」「間違いやすい表現」など、作文における一般的なルールをテーマごとに解説します。 ・ビジネス検定やSPI試験などの資格・就職試験問題の中から、国語表現に関わる設問を取り上げます。 ・また、ことば遊び的な作文課題を通して、柔軟な発想も大切にしましょう。 以上の内容を15回に割りふっておこないます。 いずれの課題も、 説明・・・課題の目標説明、例文紹介、作文条件の説明 など 作文・・・例文を参考に、条件に従って作文する 復習・・・受講生の文章をもとに解説をおこない、批評し合ったり推敲したりする の時間を設けます。継続的な出席が必要となります。		